

東京女子医科大学学会

2023 年評議員会および第 89 回総会報告

2023 年 9 月 6 日（水）の評議員会の結果に基づき、総会を 9 月 9 日（土）～9 月 28 日（木）を WEB 表決期間、9 月 30 日（土）を集計・議決日とする WEB 開催とした結果、すべての議事について承認された。

【議題 1】庶務報告

2022 年 1～12 月の庶務報告として以下のとおり報告する。

1. 会員（2023 年 5 月末時点）：
正会員は 748 名で、昨年報告した 707 名より 41 名増加した。
2. 和文誌『東京女子医科大学雑誌』（2022 年 1～12 月）：
電子版は 92 巻 1～6 号の計 6 回、冊子は 92 巻 1～6 号と英文誌 Volume 6 を 1 冊にまとめた合本号を 1 回発行した。
3. 英文誌『Tokyo Women's Medical University Journal』（2022 年 1～12 月）：
Volume 6 は 21 篇を掲載した。
4. 集会（2022 年 1～12 月）：
新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点より、いずれも WEB 学会として開催した。
第 365 回例会（2022 年 2 月 26 日）は、研修医症例報告 18 題を Zoom ミーティングにより実施した。
研究奨励賞授与式は 2 月 15 日に関係者のみにて執り行い、研究奨励賞受賞者研究発表は 2 月 26 日～3 月 10 日にオンデマンド配信とした。
第 366 回例会（2022 年 5 月 23 日午前 9 時～25 日午後 4 時）は、令和 4 年度吉岡彌生研究奨励賞と吉岡博人記念総合医学研究奨励賞の授与式は関係者のみにて執り行い、令和 3 年度吉岡彌生研究奨励賞受賞者研究発表と記念講演はオンデマンド配信にて開催した。記念講演は、「吉岡彌生先生から学ぶ」と題して 1974（昭和 49）年本学卒業生で本学常務理事の肥塚直美先生より、また読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長であり医師・医学博士の南 砂先生より「『女性の輝く時代』とは」と題してご講演いただいた。
第 88 回総会（2022 年 9 月 24 日）は、総会は書面開催、公開シンポジウムは Zoom ウェビナーにて行った。公開シンポジウムは「災害に強い医科大学を歩む」をテーマに、7 名の講師よりお話しいただいた。
5. 記念楯（2022 年 1～12 月）：
学会主催 2 個、共催 0 個、その他（退任幹事）6 個の利用でした。新型コロナウイルス感染症蔓延防止策により来校が控えられていたため共催利用がなかったが、来校や講演記念にご活用いただきたい。
6. 新名誉会員：
2023 年 8 月時点で名誉教授の称号を贈られていないため、今年は名誉会員称号贈呈の該当者はいない。
7. 新任幹事（2023 年 5 月 1 日より）：
編集担当幹事：明石定子教授・基幹分野長（乳腺外科学）、秋澤叔香准教授（看護学部臨床医学系外科学）、高梨潤一教授（八千代医療センター小児科）、山本俊至教授（ゲノム診療科）が就任した。
集会担当幹事：秋澤叔香准教授（看護学部臨床医学系外科学）、西井明子教授（統合教育学修センター基礎教育学）が就任した。
8. 新評議員推薦：
2022 年 8 月～2023 年 7 月に准教授以上に就任し承諾された 23 名と、推薦対象から漏れていた 4 名を加えた計 27 名を新たに評議員とする。

医学部

石垣景子 准教授（小児科学）
篠崎和美 准教授（八千代医療センター 眼科・小児眼科）
山村幸江 准教授（耳鼻咽喉科学）
黒田 一 教授（足立医療センター 病理診断科）
関根秀一 准教授（先端生命医科学研究所）
成宮孝祐 准教授（上部消化管外科学）
檜澤大樹 准教授（輸血・細胞プロセッシング部）
高木香恵 准教授（足立医療センター 内科）
松本卓子 准教授（呼吸器外科学）
明石定子 教授・基幹分野長（乳腺外科学）*

鵜川豊世武 准教授（集中治療科）＊
杉山晴俊 准教授（八千代医療センター 消化器内科）
梅井菜央 准教授（集中治療科）＊
小俣 卓 准教授（八千代医療センター神経小児科）＊
清水朋一 准教授（移植管理科）
吉澤浩志 准教授（八千代医療センター脳神経内科）
新美陽介 准教授（形成外科学）
此下忠志 教授（八千代医療センター糖尿病・内分泌代謝内科）＊
山田洋輔 准教授（足立医療センター周産期新生児診療部）
志賀智子 准教授（予防医学科）
看護学部
坂東美知代 准教授（老年看護学）＊
長谷美智子 准教授（小児看護学）＊
濱田昌実 准教授（地域看護学）＊
駒形朋子 准教授（看護管理学）＊
小宮山陽子 准教授（基礎看護学）
飯塚幸恵 准教授（母性看護学）
秋澤叔香 准教授（臨床医学系外科学） [就任順 ＊新任]

9. 会則改訂：

評議員任期 4 年を迎える前にご定年を迎えられる場合の任期規約を明文化する目的で、会則 第 12 条に「但し、任期途中で定年を迎える場合は、定年の 3 月 31 日までを任期とする。」の 1 文を加筆した。

10. 利益相反指針と細則の制定：

学会／論文での発表時に利益相反状態を示すことの指針と細則を制定した。申告者の対象は、学会発表は筆頭発表者、論文発表は全著者で、申告基準は細則のとおり。2023 年 10 月 1 日より施行とする。

【議題 2】会計報告：2022 年度決算および監査報告

2022 年度収支決算として以下のとおり報告する。

2022 年度収支決算：収入

会費収入は、予算額 3,770,000 円に対し決算額 3,441,000 円を計上した。新規入会者が少ないながらも、退職による twmu アドレスの不通で連絡先不明による自然退会者が増えたことが影響し、継続会員による入金が予想を下回り、予算差 329,000 円の減少となった。雑誌刊行収入は、予算額 1,235,000 円に対し決算額 1,574,200 円を計上した。英文誌の論文掲載料による入金が予想を上回ったこと、合本号の広告掲載料を、サイズや掲載位置で変えず、一律 50,000 円に設定したことから、予算差 339,200 円の増加となった。盾売却収入は予算額 20,000 円に対し決算額 0 円、雑収入は予算額 425 円に対し決算額 331 円だった。

2022 年度収支決算：支出

集会費は、予算額 876,000 円に対し決算額 536,513 円を計上した。WEB 開催により、プログラム配布や看板等の設営にかかる費用を要さなかったこと、予定したシンポジウム講師の 1 名が謝礼金を辞退されたことから、予算差 339,487 円の減少となった。出版費は、予算額 5,848,000 円に対し決算額 6,095,632 円を計上した。次年に予算計上する予定だった 92 巻/Vol.6 合本号の印刷製本費と発送費が計上されたこと、英文誌の OJ 費を低額に見積もったこと、円安によるオンライン投稿査読システムの利用料の増加等により、予算差が増加した勘定もあったが、英文誌の英文校正費、転載許諾料を要さなかったことによる雑費の減少もあり、総じて予算差 247,000 円の増加に抑えられた。経常費は、予算額 490,000 円に対し決算額 671,878 円を計上した。学会ホームページの更新料が予想を上回る予算差 310,000 円の増加となったが、備品費と修繕費を要さなかったことから、総じて 181,878 円の増加に抑えられた。


2022 年度収支決算：結果


前期繰越金 38,466,575 円を加えた収入合計 43,482,106 円に対し支出合計 7,304,023 円で、結果 36,178,083 円の繰越金を計上した。

以上の結果について、石黒直子・降矢芳子両監事の監査を受け、適正かつ公正であると認められている。

会計監査報告書

東京女子医科大学学会 2022 年度収支決算書につき、会計帳簿
および関係書類に基づき監査した結果、その内容は適正かつ公
正妥当なものであることを認めます。

2023年 7月 15日
監事 石黒 直子 

2023年 7月 31日
監事 降矢 芳子 

【議題3】会計報告：2023 年度予算

2023 年度収支予算案として以下のとおり報告する。

2023 年度収支予算：収入

会費収入は、昨年度 3,770,000 円を計上したが、今年度は、現在の会員数と入金状況より算出し、前年度差 270,000 円減の 3,500,000 円とした。雑誌刊行収入については、今年度も、合本号で広告掲載を募ることを予定し、加えて、投稿論文数増加への働きかけに取り組むことを想定し、前年度差 166,000 円増の 1,401,000 円とした。盾売却収入は前年度同様 20,000 円、雑収入は 917 円とした。

2023 年度収支予算：支出

集会費は、会場開催を想定して設営準備費を算出し、また、公開シンポジウム講師 5 名すべてが学外講師であることから、講演費と接待交通費を増やし、前年度差 199,000 円増の 1,075,000 円とした。出版費は、92 巻/Vol.6 合本号より印刷製本を法人印刷センターに依頼したことで約 2,000,000 円の費用削減に成功した。引き続き、法人印刷センターを活用することにより、削減できた費用 2,000,000 円のうち 1,000,000 円を英文誌向上への取り組み予算として OJ 刊行整備費として組み入れ、前年度差 995,000 円減の 4,853,000 円とした。経常費は、法人のサーバー見直しにより事務局でファイルのアップロードを行う体制となったことを利用して、微細な更新は事務局で対応することに変更し、HP 関連費勘定で前年度より 66,000 円の減少予算とし、前年度差 85,000 円減の 405,000 円とした。

2023 年度収支予算：結果

前期繰越金 36,178,083 円を加えた収入合計 41,100,000 円に対し支出合計 6,333,000 円で、34,767,000 円の繰越金を計上する見込みである。

2022 年度収支決算書（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

収入の部	<単位:円>			
	科目	2022 年度予算額	2022 年度決算額	差額
前期繰越		38,466,575	38,466,575	0
1. 会費収入		3,770,000	3,441,000	△ 329,000
2. 雑誌刊行収入		1,235,000	1,574,200	339,200
3. 盾売却収入		20,000	0	△ 20,000
4. 雑収入		425	331	△ 94
収入合計		43,492,000	43,482,106	△ 9,894
支出の部				

科 目	2022 年度予算額	2022 年度決算額	差額
1. 集会費	876,000	536,513	△ 339,487
2. 出版費	5,848,000	6,095,632	247,632
3. 経常費	490,000	671,878	181,878
支出合計	7,214,000	7,304,023	90,023
次期繰越	36,278,000	36,178,083	△ 99,917

2023 年度収支予算書（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

収入の部		<単位:円>	
科 目	2023 年度予算額	2022 年度予算額	増減
前期繰越	36,178,083	38,466,575	△ 2,288,492
1. 会費収入	3,500,000	3,770,000	△ 270,000
2. 雑誌刊行収入	1,401,000	1,235,000	166,000
3. 盾売却収入	20,000	20,000	0
4. 雑収入	917	425	492
収入合計	41,100,000	43,492,000	△ 2,392,000
支出の部			
科 目	2023 年度予算額	2022 年度予算額	増減
1. 集会費	1,075,000	876,000	199,000
2. 出版費	4,853,000	5,848,000	△ 995,000
3. 経常費	405,000	490,000	△ 85,000
支出合計	6,333,000	7,214,000	△ 881,000
次期繰越	34,767,000	36,278,000	△ 1,511,000

【その他】集会担当幹事会からの報告

- 第 89 回総会〔2023 年 9 月 30 日（土）13:30～16:00〕：
公開シンポジウムは、先端工学外科教授の正宗賢先生企画による「AI が支えるホスピタルの未来と社会実装」として、ハイブリッド形式で行う（会場：アカデミックコモンズ／配信：Zoom ウェビナー）。
申込期限 9 月 27 日（水）
- 第 369 回例会〔2024 年 2 月 24 日（土）午後〕：
10 月 31 日（日）を期日に、一般演題と研修医症例報告会への演題を募集している。開催形式は、社会情勢を考慮して決定する。事情ご理解の上、奮ってご応募いただきたい。
- 第 40 回吉岡彌生記念講演会〔2024 年 5 月 22 日（水）13:30～16:00〕
講師は候補を募っており、現在、検討中。

【その他】編集担当幹事会からの報告

- 和文誌：第 94 巻掲載シリーズ
例年、和文誌に掲載しているシリーズは、「生理活性物質の新知見」として 7 名にご執筆いただく。

執筆者	ご所属	内容
大月道夫先生	内分泌内科学	ステロイドホルモン
馬場園哲也先生	糖尿病・代謝学	新規糖代謝制御の分子
鈴木 敦 先生・山口淳一先生	循環器内科学	血液凝固等
竹中祐子先生・石黒直子先生	皮膚科学	アトピー性皮膚炎等
富松絢子先生・岡崎 賢 先生	整形外科学	骨代謝の新知見等
野島知人先生・野中 学 先生	耳鼻咽喉科学	アレルギー性鼻炎等
鈴木真由美先生	睡眠科	睡眠覚醒リズムとホルモン

- 和文誌：総会特集
第 89 回総会の公開シンポジウム「AI が支えるホスピタルの未来と社会実装」の講演内容を掲載する。
- 英文誌：
2022 年は、科学技術振興機構 JST によるジャーナルコンサルティングの対象誌に採択され、さらなる

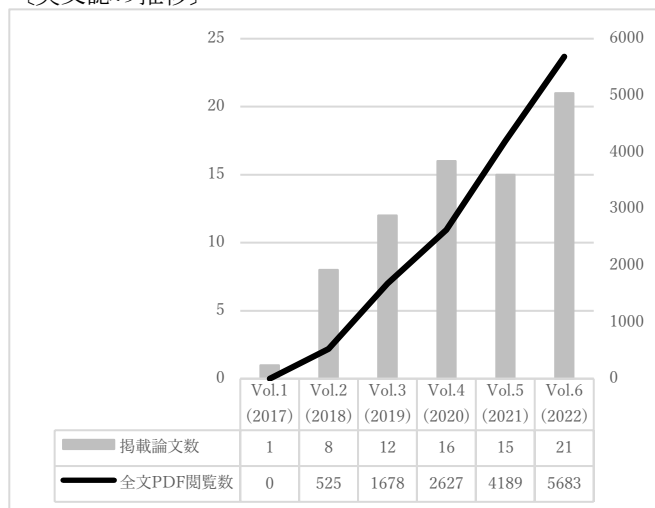
TWMUJ の改善のために第 3 者機関のご指導を受け、改善を行った。

2023 年は、具体的には、Instructions to Authors の Acceptance Criteria の確認等を行うなど、指摘されたことの改善に取り組む。

4. 英文誌／和文誌の掲載論文数と全文 PDF 閲覧数の推移：

下図のとおり、順調に増えていることを報告する。

[英文誌の推移]



[和文誌の推移]

